# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

03-234043

(43) Date of publication of application: 18.10.1991

(51)Int.CI.

H01L 21/78

(21)Application number: 02-030061

(71)Applicant: ROHM CO LTD

(22)Date of filing:

09.02.1990

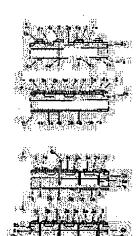
(72)Inventor: TANAKA YOSHINORI

MATSUMOTO YOSHIJI

## (54) MANUFACTURE OF SEMICONDUCTOR DEVICE

# (57)Abstract:

PURPOSE: To prevent a wafer from defective separation by forming a mask along a dicing line on the rear surface of the wafer before an electrode is formed on the rear surface of the wafer, and removing this mask after the electrode is formed and before a sheet is affixed. CONSTITUTION: Resists 4a and 4b are formed on the front surface 1a and the rear surface 1b of a silicon wafer 1 respectively. The resist 4b is formed in a belt shape along a dicing line 1. And electrodes 5a and 5b are formed on the front surface 1a and the rear surface 1b of the silicon wafer respectively and the resists 4a and 4b are removed, and the silicon wafer 1 is made for halfdicing in the direction from the front surface 1a to the rear surface 1b by using a dicing saw 6, and diodes on the silicon wafer 1 are electrically separated. Then, an extensible wafer sheet 7 is affixed to the rear surface 1b of the silicon wafer.



# LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

### 19 日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

#### ⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-234043

fint. Cl. 3

庁内整理番号 識別記号

❸公開 平成3年(1991)10月18日

H 01 L 21/78

v 6940-5F

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

半導体装置の製造方法 ❷発明の名称

> 願 平2-30061 ②特

**200**出 願 平2(1990)2月9日

砲発 明 H 明 美 司 個発 者 本

京都府京都市右京区西院溝崎町21番地 ローム株式会社内 京都府京都市右京区西院溝崎町21番地 ローム株式会社内

京都府京都市右京区西院溝崎町21番地

ローム株式会社 の出 願 人 弁理士 中村 茂信 個代 理

1. 発明の名称

半導体装置の製造方法

2. 特許請求の範囲

(1) ウェハの表面及び裏面のそれぞれに電極を 形成し、このウェハを表面より裏面に向けてハー フダイシングし、このウェハ塩面にシートを贴着 したのち、このウェハをクラッキングし、前記 シートを引き伸ばしてウェハを個々のチップに分 離する半導体装置の製造方法において、

前記ウェハ裏面に電極を形成する前に、この裏 面にダイシングラインに沿ってマスクを形成し、 低極形成後シート贴着前にこのマスクを除去する ことを特徴とする半導体装置の製造方法。

3. 発明の詳細な説明

(イ)産業上の利用分野

この発明は、ダイオード、トランジスタ、IC 等の半導体装置の製造方法に関し、詳しく言えば ウェハの分割不良防止に関する。

(ロ) 従来の技術

従来の半導体装置の製造方法を、ダイオードの 場合を例に取り、第2図(a)~(e)を参照しながら説 明する。 筑2図(a)では、 N・ のシリコンウェハ1 1に、然拡散等の手段により、N層 12b、P・ **酒12aを順に形成し、P−N接合を得た状態を** 示している。13は、シリコン酸化膜である。.

シリコンウェハ11の表面11a、裏面11b には、それぞれ電極15a、15bが形成される (第2図6)参照)。 これら電極15a、15bは、 金属材料を真空落着、スパッタ、印刷あるいはめ っきにより成膜したものである。電極15a、1 5 b の形成されたシリコンウェハ11は、ダイシ ングラインに沿って、表面11aより裏面11b に向けてハーフダイシングされる (第2図C)参 照〕。 ハーフダイシングとは、シリコンウェハ1 1の重面115個を切断しないで少し残すことで あり、ダイシング溝16aにより、ウェハの形態 を保ったままで、各ダイオードが電気的に分離さ れる。従って、この状態で各ダイオードの特性を 順次チェックして行く。 なお、ハーフダイシング

特開平3-234043(2)

は、上述のように、シリコンウェハ裏面側の電極 が比較的薄く形成されている場合に適用されるダ イシング方法である。

さらに、シリコンウェハ裏面11 b には延伸性を有するウェハシート17が貼着される〔第2図(d)参照〕。ウェハシート17を貼着した状態で、シリコンウェハ11をクラッキングして、シリコンウェハ11を各チップ18に分割する。そして、ウェハシート17を引き伸ばすと、各チップ18か一つ一つ分離する〔第2図(e)参照〕。こうして分離されたチップ18を、コレット等で吸着し、リード上にダイボンディングする。

## (ハ)発明が解決しようとする課題

上記従来の半導体装置の製造方法では、シリコンウェハ11をクラッキングして、ウェハシート17を引き伸ばす際、電極15 bを構成する金属のじん性により、チップ18同志が完全に分離せず、第2図(f)に示すようにつながった状態となることがある。このようにチップ18がつながっていると、ダイボンディングの前に手で切り離す必

が形成されていないことにより、クラッキングの際に、電極金属のじん性により生じる分割不良を 防止することが可能となる。

#### (へ) 実施例

この発明の一実施例を第1図に基づいて以下に 説明する。

第1図(a)は、シリコンウェハ1の断面を示している。このシリコンウェハ1は、例えば N・型のシリコンで、その表面 1 a 例には、N層 2 b、 P・層 2 a が熱拡散層等の手段により形成され、PーN接合が構成される。3は、シリコン酸化股(SiOa)であり、P・層 2 a 表面を除いてシリコンウェハ表面 1 a を被履する。

シリコンウェハ1の表面1a、裏面1bには、それぞれレジスト4a、4bが形成される(第1図(b)参照)。レジスト4aは、表面1aの電極をパターン付けするものである。また、レジスト4bは、ダイシングライン2に沿って帯状に形成される。これらレジスト4a、4bは、例えばホトレジストを表面1a、裏面1bにそれぞれスピン

要があり、製品不良にもつながる。

この発明は、上記に鑑みなされたもので、ウェ ハの分割不良を防止できる、半導体装置の製造方 法の提供を目的としている。

#### (二) 課題を解決するための手段

#### (水)作用

この発明の半導体装置の製造方法では、マスク があった所には電極が形成されない。 従って、 ウェハ裏面では、ダイシングラインに沿って電極

コートし、ホトマスクを用いて館光した後、現像 して不収部分を除去するホトリソグラフィーを適 用して形成する。

シリコンウェハ表面1 a、裏面1 bには、真空 蒸着、スパッタリング、印刷等の手段を適用して、 それぞれ電極5 a、5 bが形成される(第1図に) 参照)。

そして、レジスト4a、4bをそれぞれ剝離する(第1図(d)参照)。シリコンウェハ裏面1bでは、ダイシングライン&に沿って、帯状に電極の形成されていない部分が現れる(第1図(d)参照)。なお、レジスト5a、5bには、その上に電極が形成されにくい材質が好ましい。これはレジスト剝剛時に電極部分が一緒に剝がれるのを防止するためである。

シリコンウェハ1は、表面1 a より裏面1 b に向けて、ダイシングソウ6を用いてハーフダイシング ひする。このハーフダイシングは、ダイシングライン & に沿って行われ、シリコンウェハ1 の 裏面1 b 側の部分1 c は切断せずに残しておく。グ

### 特閒平3-234043 (3)

イシングソウ6によるダイシング消6 aによりシリコンウェハ1上のダイオードがそれぞれ電気的に分離される。この状態で、各ダイオードにプローブをあてて、その特性を検査し、不良のあるダイオードにはマークを付しておく。

次に、シリコンウェハ裏面1bに、延伸性を有するウェハシート7が贴着される (第1図e)参照)。このウェハシート7は、第1図e)には示していないが、シリコンウェハ1の外形よりも大きくされている。

この状態でシリコンウェハ1をクラッキングして、個々のチップ8に分割する。すなわち、シリコンウェハ1のダイシングせずに残した部分1 c にクラックを入れる。そして、ウェハシート7を引き仲ばせば、シリコンウェハ1がチップ8に分離する(第1図(f)参照)。

電極5 b は、ダイシングライン&に沿う部分には形成されていないから、電極5 b にクラックを入れて分割する必要がなくなり、チップ 8 がつながったままになる分割不良は生じない。従って、

図、第2図(a)、第2図(b)、第2図(c)、第2図(d)及び第2図(e)は、それぞれ従来のダイオードの製造工程を順に説明する図、第2図(f)は、この従来のダイオードの製造工程の問題点を説明する図であ

 特許出願人
 ローム株式会社

 代理人
 弁理士
 中
 村
 茂
 信

チップ 8 を手で分削する手間が省け、製品不良も 生じにくくなる。

分離されたチップ8は、不良のものを除いて、 コレット等に吸着され、図示しないリード等の上 にダイボンディングされる。

なお、上記実施例では、ダイオードについて説明しているが、この発明はトランジスタ、IC等、ウェハをチップに分割する工程を要する、すべての半導体装置の製造に適用可能である。

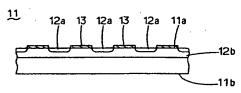
### (ト)発明の効果

以上説明したように、この発明の半導体装置の 製造方法は、ウェハ裏面に電極を形成する前に、 この裏面にダインングラインに沿ってマスクを形 成し、電極形成後シート贴着前にこのマスクを除 去することを特徴とするものであるから、ウェハ の分割不良を有効に防止することができる。

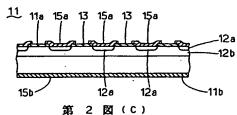
#### 4. 図面の簡単な説明

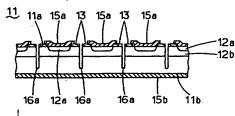
第1図(a)、第1図(b)、第1図(c)、第1図(d)、第 1図(e)及び第1図(f)は、それぞれこの発明の一実 施例に係るダイオードの製造工程を順に説明する

### 第 2 図(a)

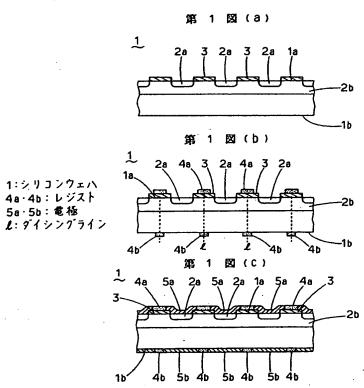


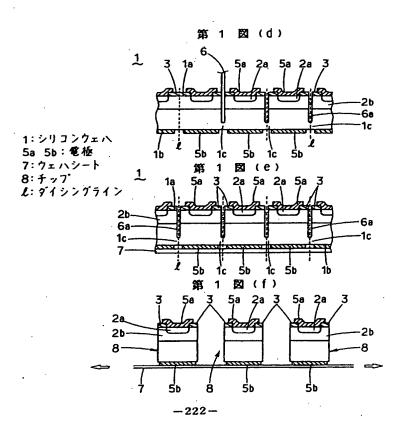
第 2 図(b)





# 特開平3-234043 (4)





# 特開平3-234043 (5)

